



放射線治療科

放射線腫瘍医コースの概要

研修プログラム前半では、京大病院放射線治療科もしくは研修協力病院（マグネット病院）の放射線科をローテートします。内容は放射線治療が中心ですが、画像診断の研修も行えるようにします。これは、Image-guided radiotherapy (IGRT) という言葉が示すように放射線治療が画像と融合した方向に発展しつつあることに対応するものです。京大病院および研修協力病院での研修期間は、希望によりますが、あわせて2～4年間です。

その後、大学院（がんプロフェSSIONナルコース、4年間）へと進学し、研修の継続と専門医の取得を目指します。同時に放射線腫瘍学に関する研究にも携わり、その後の学位（医学博士）修得を目指していただきます。

以上のように、初期研修後6～8年（卒後8～10年）で放射線治療専門医ならびに学位を取得できるコースとなっています。

到達目標

- 主要な臓器のがんについて、「標準治療」の概要が理解・把握できる
- 放射線治療、化学療法、化学放射線療法中の患者に対して、適切な診療ができる
- 適切な放射線治療計画（シミュレーション）を独力で施行することができる
- 放射線治療の物理学的・生物学的基礎に精通し、実際の治療計画に応用できる
- 新患の診察を行い、放射線治療の適応や方法について自主的に判断し、その患者の治療計画を立案することができる
- 定位放射線照射、強度変調放射線治療（IMRT）、小線源治療、術中照射などの、高度な技術が必要な放射線治療に参加し、指導医の補助をすることができる
- 科内および診療科間のカンファレンスに参加し、治療方針について検討することができる
- 経験した貴重な症例について、指導医のもと学会や専門誌などにケースレポートを発表することができる

詳細は当科ホームページ（<http://radiotherapy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>）を参照してください